

総合的な利用メニューの充実 ～特に利用の質の改善のための条件整備～ に係る取組の実施結果（バックデータ）

【第2期計画 短期目標】

1. 登山道・自然観察路の充実

自然環境の保全と自然体験学習の促進の両面から現在の登山道・自然観察路のモニタリングを実施し、充実を図る。これにより利用者層（技術、体力、知識、経験、目的等）に応じた自然体験学習の場を提供する。

(1) モニタリングによる登山道・自然観察路の現況把握

周回線歩道等の歩道や自然解説標識等のサインについて、継続的に利用状況等を把握する。

(2) 整備の実施

上記モニタリングにより、整備や補修等が必要と判断された場合は、適宜実施する。

2. キャンプ指定地の設置

質の高い自然体験学習を提供する一手法として、豊かな自然を間近に感じながら食事・睡眠をとることのできるキャンプ指定地の設置を検討する。

(1) キャンプ指定地の必要性の検討

キャンプ指定地の必要性について、利用者の意向を把握する。

(2) 候補地の検討、選定

キャンプ指定地として適切な候補地を検討し、選定する。

3. 山上駐車場の周辺の活用

山上駐車場及びその周辺において、大台ヶ原の新しい利用を進めるための活動拠点、交流拠点の機能を充実させる。

(1) 活用方法等の検討

山上駐車場周辺の有効活用について、周辺地域住民や関係機関等の意向を把握し、その必要性や、具体的な活用方法について検討を行う。

4. 自然解説・自然体験学習プログラムの充実

周辺地域の関係機関等とも連携したガイドツアー等の自然解説・自然体験学習プログラムを充実し、質の高い自然体験学習を提供する。

(1) 環境省主催による自然体験学習プログラムの実施

現行のアクティブレンジャーやパークボランティアによる自然観察会等との役割分担を明確にした上で、新たな自然体験学習プログラムを検討・実施し、大台ヶ原自然再生事業により蓄積されたデータの活用を図る。

(2) 周辺地域の関係機関等と連携した自然体験学習プログラムの実施

エコツアー等の実施等、周辺地域の関係機関等と連携したプログラムを検討する。

5. 情報提供・情報発信の充実

多様な情報ツールを活用した情報提供・情報発信の充実により、利用の「量」の適正化、「質」の改善に資するとともに、大台ヶ原の魅力を広く社会にPRし、質の高い自然体験学習の充実を図る。

(1) 周辺地域の関係機関等と連携した情報発信の充実

大台ヶ原の魅力の発信等、周辺地域の関係機関等における情報発信と連携して、情報発信の充実を図る。

(2) 各種情報の活用

大台ヶ原自然再生事業における各種取組や、その成果等の情報の紹介と活用を図る。

6. ビジターセンター機能の充実

大台ヶ原利用の拠点として展示機能、情報提供機能、利用指導機能、教育機能等を充実する。

(1) 機能整理

ビジターセンターの役割を整理し、その機能の充実を図る。

(2) データ・ノウハウの蓄積

外部との通信手段の改善について検討を行うとともに、大台ヶ原自然再生事業における各種取組の成果やノウハウを蓄積する。

(3) 周辺地域の関係機関等との連携

ビジターセンターの機能を補完するため、周辺地域の関係機関等との連携を推進する。

資料目次

1. 登山道・自然観察路の充実	3
1-1. モニタリングによる登山道・自然観察路の現況把握	3
(1) 西大台利用調整地区モニタリング等〔H18-25〕【再掲】	3
1-2. 整備の実施	3
(1) 東大台周回線歩道における標識改修整備〔H22〕	3
(2) 大杉谷線歩道の復旧整備〔H20-25〕	4
2. キャンプ指定地の設置	5
2-1. キャンプ指定地の必要性の検討	5
(1) キャンプ指定地に係る利用者ニーズの把握〔H25〕	5
3. 山上駐車場の周辺の活用	5
3-1. 活用方法等の検討	5
(1) 大台ヶ原の利用に関する協議会の設立〔H24-25〕【再掲】	5
4. 自然解説・自然体験学習プログラムの充実	6
4-1. 環境省主催による自然体験学習プログラムの実施	6
(1) アクティブレンジャー自然観察会〔H17-23, 25〕	6
(2) 大台ヶ原地区パークボランティア自然観察ハイキング〔H19-25〕	8
4-2. 周辺地域の関係機関等と連携した自然体験学習プログラムの実施	9
(1) 周辺地域の小中学生を対象としたイベントの開催〔H23-25〕	9
(2) 地元勉強会の開催〔H22-25〕	12
(3) 上北山村主催イベント「心の道ウオーク」への協力〔H24-25〕	13
5. 情報提供・情報発信の充実	14
5-1. 周辺地域の関係機関等と連携した情報発信の充実	14
(1) 大台ヶ原関連展示イベント〔H20-24〕	14
6. ビジターセンター機能の充実	15
6-1. 機能整理	15
(1) ふれあいコーディネーターによるビジターセンター運営補助〔H19-25〕	15
6-2. 周辺地域の関係機関等との連携	15
(1) ツキノワグマの目撃情報の共有〔H25〕	15
7. 環境省以外の主体による取組	16
(1) 通信インフラの整備〔H24〕	16
(2) 大台ヶ原・大峯山ユネスコエコパーク保全活用推進協議会の設立〔H25〕	16

1. 登山道・自然観察路の充実

1-1. モニタリングによる登山道・自然観察路の現況把握

(1) 西大台利用調整地区モニタリング等〔H18-25〕【再掲】

西大台周回線歩道においては、利用調整地区のモニタリングの中で、下記の取組を実施している。取組の詳細については、「より良好な森林地域の保全と質の高い利用の提供 ～利用調整地区の運用～」に係る取組の実施結果（バックデータ）」を参照のこと。

- ・ 歩道状況調査（平成 18 年度～平成 25 年度）
- ・ 洗掘詳細調査（平成 23 年度～平成 25 年度）

1-2. 整備の実施

(1) 東大台周回線歩道における標識改修整備〔H22〕

平成 22 年度、東大台周回線歩道等において、老朽化した解説標識の改修整備を実施した。

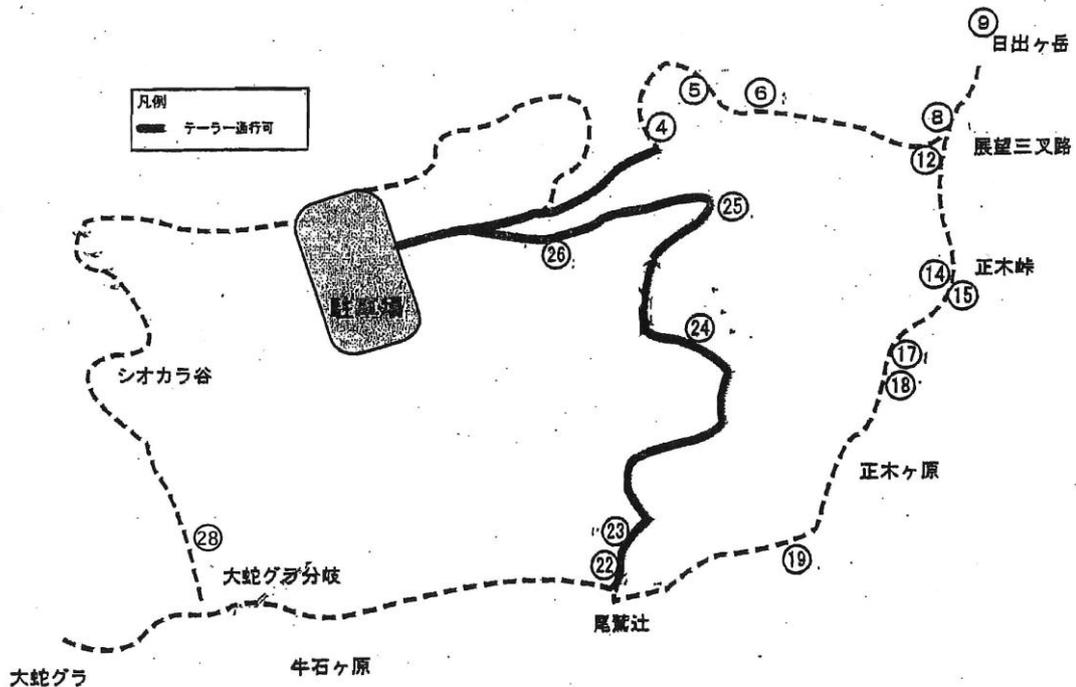


図 1：東大台周回線歩道 標識改修整備位置図



写真 1：整備前の例⑫(展望三叉路部)



写真 2：完成後の例⑫(展望三叉路部)

(2) 大杉谷線歩道の復旧整備 [H20-25]

大杉谷線歩道は、平成 16 年 9 月の台風 21 号により、甚大な被害を受けて全線が通行止めとなっていたが、下記のとおり、順次、被害箇所の復旧整備を行い、平成 26 年度より全線を供用予定としている。

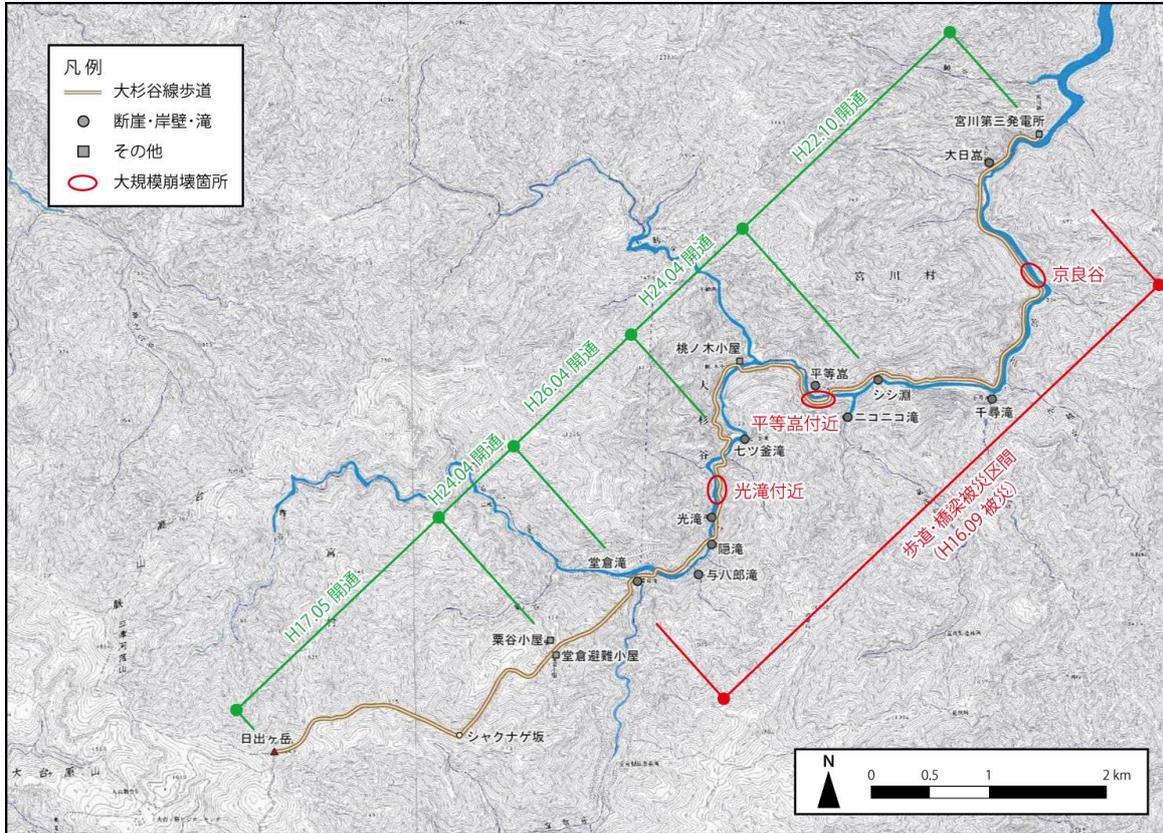


図 2：大杉谷線歩道の開通状況

2. キャンプ指定地の設置

2-1. キャンプ指定地の必要性の検討

(1) キャンプ指定地に係る利用者ニーズの把握〔H25〕

平成 25 年度に、大台ヶ原、大峯山系、大杉谷の各地点周辺において、大台ヶ原におけるキャンプ指定地に係る利用者の需要を把握する調査を実施した。

3. 山上駐車場の周辺の活用

3-1. 活用方法等の検討

(1) 大台ヶ原の利用に関する協議会の設立〔H24-25〕【再掲】

平成 24 年度、大台ヶ原の適切な管理運営を実施していくため、関係者の合意形成を行うとともに、連携・協働を図ることを目的として、新たに「大台ヶ原の利用に関する協議会」を設立し、様々な検討を行っている。「より良好な森林地域の保全と質の高い利用の提供 ～利用調整地区の運用～ に係る取組の実施結果（バックデータ）」参照

4. 自然解説・自然体験学習プログラムの充実

4-1. 環境省主催による自然体験学習プログラムの実施

(1) アクティブレンジャー自然観察会〔H17-23, 25〕

近畿地方環境事務所 吉野自然保護官事務所では、五感を使って季節ごとの大台ヶ原の自然を感じ、自然とふれあうきっかけ作りの場とすることや、トウヒやコケの衰退、ミヤコザサの繁茂などの変わりつつある大台ヶ原の自然の現状について解説し、それらを通じて広く自然環境の保全とその利用の在り方について啓発することを目的に、平成17年度以降、アクティブレンジャー（AR）による自然観察会を実施している。なお、平成24年度は実施していない。平成23年度の実施概要を下記に示す。

① 実施概要

a) 自然観察会 ～苔の森でミニエコツアー～

開催日時：平成23年6月25日(土)、9月3日(土)、17日(土)、10月1日(土)

※ 各日、1回目 10:40～12:10、2回目 13:30～15:00

場 所：苔道

対 象：一般（小学生以下の参加は保護者同伴とした）

定 員：各回10名、計20名

参加費：100円（傷害保険代）

広 報：ホームページ、報道機関への情報提供、ビジターセンター、当日募集

b) 自然観察会 ～夏の森でエコハイキング～

開催日時：7月23日(土)、24日(日)、8月6日(土)、13日(土)（利用が集中する夏休み期間を中心に実施） ※ 各日、10:40～13:15

場 所：中道

対 象：一般（小学生以下の参加は保護者同伴とした）

定 員：各回15名

参加費：100円（傷害保険代）

広 報：ホームページ、報道機関への情報提供、ビジターセンター、当日募集

② 内容

実施体制は基本的に、メイン解説1人、補助解説1人の2人体制で行った。

a) 自然観察会 ～苔の森でミニエコツアー～

- ・ 国立公園の紹介およびマナー・ルールのご案内
- ・ 季節の見頃の植物の紹介、有毒植物の周知
- ・ 匂いあてゲーム（松ヤニ）
- ・ 推理ゲーム（根上がりしている樹木についてその理由を解説、倒木更新）
- ・ シカの食害問題についての紹介
- ・ 防鹿柵の紹介、効果の説明
- ・ 紙芝居による大台ヶ原の現状の解説（森林衰退の経緯）
- ・ 自然再生事業の取り組みの紹介
- ・ 生態系のしくみ紹介
- ・ 大台ヶ原の歴史の解説

b) 自然観察会 ～夏の森でエコハイキング～

- ・ 国立公園の紹介およびマナー・ルール案内
- ・ 季節の見頃の植物紹介、有毒植物の周知
- ・ 匂いあてゲーム（松ヤニ）
- ・ 推理ゲーム（倒木更新）
- ・ シカの食害問題についての紹介
- ・ 防鹿柵の紹介、効果の説明
- ・ 自然再生事業の取り組みの紹介
- ・ 野鳥観察およびその生態の紹介
- ・ 生態系のしくみ紹介
- ・ 五感を使ったゲーム
- ・ 大台ヶ原の歴史の解説



写真3：AR自然観察会の様子

③ 実施結果

苔の森でミニエコツアーは4日8回（内2日4回台風及び悪天候のため中止）、夏の森でエコハイキングは4日4回（内2日2回台風及び悪天候のため中止）、計2日12回の観察会を実施し、参加者は、苔の森でミニエコツアーが11名、夏の森でエコハイキングが30名の計41名であった。

前年度の課題であった当日キャンセルについては、開催前日の予約者への連絡等により改善された。

今年度は、紀伊半島に多大な影響を及ぼした台風の通過により、観察会を中止せざるを得ないことがあった。また、大台ヶ原へのアクセス道の崩落により、事前キャンセルが相次いだ。キャンセル時には、アクセス道において不正確な情報による混乱が多数見受けられたことから、今後は正確な情報を提供する必要があると考えられる。

表1：自然観察会 ～苔の森でミニエコツアー～ 実施結果

開催日程	予約者数		予約合計	参加者数		参加合計	アンケート回収
	午前	午後		午前	午後		
6/25(土)	3	0	3	6	1	7	3
9/3(土)	1	0	1	中止	中止	-	-
9/17(土)	1	0	1	中止	中止	-	-
10/1(土)	2	1	3	2	2	4	4
合計	7	1	8	8	3	11	7

表2：自然観察会 ～夏の森でエコハイキング～ 実施結果

開催日程	予約者数	予約合計	参加者数	アンケート回収
7/23(土)	11	11	中止	-
7/24(日)	15	15	中止	-
8/6(土)	11	11	15	15
8/13(土)	15	15	15	11
合計	52	52	30	26

(2) 大台ヶ原地区パークボランティア自然観察ハイキング [H19-25]

近畿地方環境事務所 吉野自然保護官事務所では、五感を使って季節ごとの大台ヶ原の自然を感じふれあうきっかけをつくり、大台ヶ原の自然を分かりやすく紹介する、大台ヶ原地区パークボランティア（P V）による自然観察ハイキングを実施している。これは、大台ヶ原の自然環境に親しみ、理解を深め、利用マナーの啓発を行うことを目的としている。平成24年度の実施概要を下記に示す。

① 実施概要

開催日時：平成24年6月10日(日)、7月22日(日)、8月12日(日)、10月7日(日)

※ 各日、11:00～15:00

場 所：東大台周回線歩道

対 象：一般（小学生以下の参加は保護者同伴とした）

定 員：各回20名

参加費：100円（傷害保険代）

広 報：ホームページ、報道機関への情報提供、ビジターセンター、当日募集

② 内容

ガイドのスキルや経験を持つパークボランティアが先導又は解説を行い、アクティブレンジャーが安全管理を担当し、1グループにつき最低2人体制で実施した。

- ・ 国立公園の紹介及びマナー・ルールの案内
- ・ 季節の見頃の植物の紹介、有毒植物の周知
- ・ シカの食害問題についての紹介
- ・ 防鹿柵の紹介、効果の説明
- ・ 自然再生事業の取り組みの紹介
- ・ 生態系のしくみ紹介
- ・ 大台ヶ原の歴史の解説



写真1：P V自然観察ハイキングの様子(7月)

③ 実施結果

今年度は、シロヤシオ開花時期の6月、夏休み直前の7月、盆シーズンの8月と紅葉が始まる10月の計4回実施。参加者は計69名であった。

前年度同様に、開催前日までの予約者への確認連絡を行ったことにより当日キャンセルについては改善された。更に、6月は事前予約がなかったにも関わらず、当日集客で18名もの参加があった。特に7月及び8月は、奈良県が発行する夏休みイベントガイドに掲載されたこともあり、親子連れが多かった。

前年度の課題であったアクセスについても、事前に交通手段を聞き、迂回路の案内及び復旧後はその旨の情報を提供したことで、混乱を避けることが出来た。

一方で、奈良交通バスのダイヤ改正に伴い開始時間を11時からとしたが、車の利用客が大多数であったことと、また、年齢層が幅広く、希望コースにもばらつきがあったことから、事前に情報を把握し、何種類かコースをある程度決めて案内する必要があると考えられる。

実際、8月以降は前もって交通手段、参加経験、希望コース等を確認したことで、改善に繋がった。今後もできるだけ参加者のニーズに沿うような情報の把握、提供を心がけたい。

表1：PV自然観察ハイキング 実施結果

開催日程	予約者数	参加者数	アンケート回収
2012/6/10(日)	0	18	17
2012/7/22(日)	17	17	17
2012/8/12(日)	14	14	13
2012/10/7(日)	10	20	14
合計	41	69	61

4-2. 周辺地域の関係機関等と連携した自然体験学習プログラムの実施

(1) 周辺地域の小中学生を対象としたイベントの開催 [H23-25]

① 周辺地域の小中学校と連携した育苗イベント [H23]

平成23年度は、周辺地域の関係機関等と連携した普及啓発活動として、上北山村立上北山小学校、上北山中学校の児童・生徒を対象に、大台ヶ原で採取した種子を播種するイベントを実施した。

a) 実施概要

日 時：平成23年12月19日(月) 13:30～16:25

場 所：上北山中学校

参加者：31名（小学校児童18名、中学校生徒13名）

b) 内容

大台ヶ原で採取したトウヒ、ナナカマドの種子を児童・生徒自身がプランターに土を入れ、種をまき、灌水するまでの作業を行った。今後、生徒による苗木への灌水等を行い、一定の大きさまで育てた後、大台ヶ原の植栽試験に供する予定。



写真4：イベントの様子（上北山小学校児童）



写真5：イベントの様子（上北山中学校生徒）

② 周辺地域の小中学校と連携した育苗イベント [H24]

平成 24 年度は、上北山村が有する優れた資源である大台ヶ原に愛着を持ってもらい、そこで生じている森林衰退の現状や、環境省が中心となって行っている自然再生事業について関心を持ってもらうことを目的に、小中学生を対象としたイベントを開催した。

a) 実施概要

実施日時：平成 24 年 11 月 21 日(水) 14:00～16:25

実施場所：上北山村立上北山中学校

参加者：上北山村立上北山小学校・中学校の児童・生徒及び教職員（児童・生徒 27 名、教職員 24 名）

実施内容：・ あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 河原統括自然保護企画官

・ 講義「みんなの大台ヶ原の森について」 講師：奈良教育大学 教授 松井 淳

・ 平成 23 年度に行ったイベントで播種した苗（トウヒ・ナナカマド）の計測

・ 「トウヒとナナカマドについて」 講師：(株)環境総合テクノス 樋口 高志

・ 計測結果発表

b) 実施状況

i 講義「みんなの大台ヶ原の森について」（講師：奈良教育大学 教授 松井 淳）

大台ヶ原はどういうところなのか、なぜ森は衰退したのか、なぜ森は回復しないのか、といったことについて、分かりやすく解説していただいた。

ii 平成 23 年度に播種した苗（トウヒ・ナナカマド）の計測

体育館で、平成 23 年度のイベントで児童・生徒それぞれが播種したプランターの苗木（トウヒ・ナナカマド）の高さを計測した（mm 単位）。

トウヒ、ナナカマドの計測を行った結果、最も大きい苗木は、トウヒは 32mm、ナナカマドは 99mm であった。トウヒ、ナナカマドそれぞれの苗木の高さ別の頻度分布を図 3 に示す。

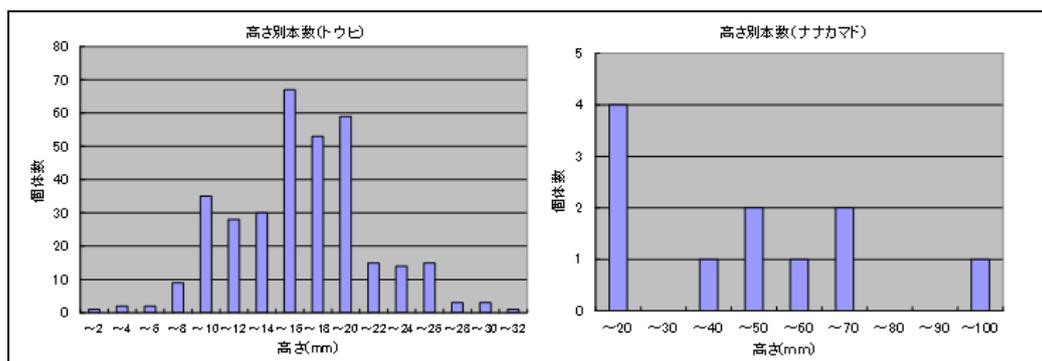


図 3：トウヒ・ナナカマドの苗木の高さ別の頻度分布

iii 「トウヒとナナカマドについて」（講師：(株)環境総合テクノス 樋口 高志）

トウヒとナナカマドがどのような植物かを紹介した後に、大台ヶ原のトウヒがどのように成長したのかを自然再生事業で得られたデータと過去の記録を活用しながら、自然の中で樹木が育つには長い時間がかかること、森がいったんなくなると元に戻すにはとても長い時間と手間がかかることを説明し、自然を守ることの大切さを伝えた。



写真 6：松井教授による講義風景



写真 7：播種苗の計測風景



写真 8：トウヒとナナカマドについての説明風景

③ 周辺地域の小中学生を対象としたイベントの開催〔H25〕

大台ヶ原を地元を持ち、将来、地域の担い手となる地元の小学生や中学生に、身近にある上北山村が有する優れた資源である大台ヶ原に愛着を持ってもらい、そこで生じている森林衰退の現状や環境省が中心となっておこなっている自然再生事業について関心を持ってもらうことを目的にイベントを実施した。

日 時：平成 25 年 11 月 12 日(火) 14:00～16:30

場 所：上北山中学校

参 加 者：上北山村の小学生：10 名、中学生：16 名

講 師：奈良教育大学 鳥居 春己 教授

実施内容：① 大台ヶ原〇×クイズ

② 講義「大台ヶ原のシカと哺乳類」

③ 哺乳類の頭骨の展示



写真 9：大台ヶ原〇×クイズ



写真 10：鳥居教授による講義



写真 11：哺乳類の頭骨等の展示

(2) 地元勉強会の開催 [H22-25]

上北山村が有する優れた資源である大台ヶ原に愛着を持ってもらい、そこで生じている森林衰退の現状や、環境省が中心となって行っている自然再生事業について関心を持ってもらうことを目的に、平成22年度から地元勉強会を開催している。

① 平成24年度実施状況

実施日時：平成24年11月21日(水) 19:00～22:00

実施場所：上北山村河合集落総合会館

参加者：上北山村の住民(23名)

実施内容：・あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 佐山所長

- ・講義「大台ヶ原の魅力ある自然を守るためには」 講師：奈良教育大学 教授 松井 淳
- ・意見交換会

「大台ヶ原の魅力ある自然を守るためには」という題目で、松井委員(奈良教育大学 教授)に、森林の更新動態に着目し、森林の世代交代のしくみ、大台ヶ原の森の変化の歴史、大台ヶ原自然再生事業に関する講義をしていただいた。その後、意見交換を行った。



写真12：佐山所長によるあいさつ



写真13：松井教授による講義風景

② 平成25年度実施状況

日時：平成24年11月12日(火) 19:00～21:00

場所：上北山村振興センター

参加者：19名(上北山村の住民)

講師：奈良教育大学 鳥居 春己 教授

実施内容：講義 「シカの個体数調整は何故必要なのか」



写真14：環境省による挨拶



写真15：鳥居教授による講義



写真16：地元勉強会の様子

(3) 上北山村主催イベント「心の道ウオーク」への協力〔H24-25〕

上北山村では、大台ヶ原や大峯など、村の観光資源を活用したイベント「心の道ウオーク」を平成17年度より、継続的に開催されている。その中で、平成24年度、25年度は、吉野自然保護官事務所も協力して、大台ヶ原をコースとしたイベントが下記のとおり開催された。

① 平成24年度実施状況

表3：心の道ウオークの実施状況（平成24年度、大台ヶ原関係抜粋）

	開催日	コース		募集人数	参加実績	備考
1	5月23日(水) ～24日(木)	東大台・大普賢岳	1泊2日	20人	13人	
2	5月26日(土)	東大台	日帰り	20人	—	最少催行人数に満たなかったため中止
3	5月28日(月)	西大台	日帰り	20人	22人	申込多数のため、バス乗車定員まで受付
4	6月8日(金) ～9日(土)	滝めぐり・西大台	1泊2日	20人	—	最少催行人数に満たなかったため中止
5	10月16日(火) ～17日(水)	東大台・滝めぐり	1泊2日	20人	—	最少催行人数に満たなかったため中止
6	10月20日(土)	西大台	日帰り	20人	22人	
	合計			120人	57人	



② 平成25年度実施状況

表4：心の道ウオークへの協力実績（平成25年度、大台ヶ原関係抜粋）

開催日	コース		募集人数	参加実績	備考
10月25日(金)	西大台ー小処	日帰り	20人	—	中止(台風)
11月7日(木)	西大台ー小処	日帰り	20人	14人	
11月10日(日)	西大台ー小処	日帰り	20人	12人	雨天のため、西大台1周に変更
合計			60人	26人	

5. 情報提供・情報発信の充実

5-1. 周辺地域の関係機関等と連携した情報発信の充実

(1) 大台ヶ原関連展示イベント〔H20-24〕

大台ヶ原に関する展示イベントを周辺地域と連携しながら、平成20年度より実施している。平成24年度の実施状況を下記に示す。

① 実施概要

期間：平成24年5月29日(火)～6月11日(月)

場所：かしはらナビプラザ 2階展示スペース

主催：上北山村

協力：橿原市、近畿地方環境事務所、吉野自然保護官事務所

目的：昨秋の台風からの復興を後押しする企画として、上北山村の見どころを展示するイベントにて、日本百名山「大台ヶ原」の魅力を紹介すること。

② 展示物・展示状況

No.	展示物リスト	数量
1	大台ヶ原パネル(①, ④～⑩, ⑬～⑳)	各1
2	大峰山系パネル(②, ③, ⑥, ⑪)	各1
3	レンジャー服	1
4	樹木円盤(トウヒ)	1
5	シカ頭骨	1
6	ウラジロモミ苗	1
7	ラス	1
8	防鹿柵	1
9	だゆうくんパネル	1
10	折り紙	
11	西大台パンフ	
12	トウヒ苗(小・中)	各1
13	ツキノワグマ剥製	1
14	昆虫標本(小)	3
15	立ち木	1
16	大台ヶ原の映像(DVD)	1
17	大台ヶ原の生物閲覧資料(昆虫・植物・動物)	各1
18	昆虫標本(大)	3
19	ニホンジカの角	2～3
20	植物標本(トウヒ・ブナなどの実)	
21	ニホンジカ剥製	1



写真 20：展示状況

■過去の展示イベント実施状況

- 平成20年10月21日～10月31日 @ 京都御苑
「近畿の豊かな自然展 吉野熊野国立公園〔大台ヶ原〕 & 瀬戸内海国立公園〔成ヶ島〕」
- 平成21年7月10日～8月2日 @ 京都御苑
「近畿の豊かな自然展 山と水の息吹を感じて」
- 平成22年8月28日～9月2日 @ 東京都(奈良まほろば館)
「大台ヶ原の魅力発信展示会」
- 平成22年10月9日～10月31日 @ 京都御苑
「生物多様性を考える大台ヶ原と京都御苑の生きもの展」
- 平成22年11月13日 @ 小処溪谷もみじ祭り
「大台ヶ原の情報発信」
- 平成23年10月7日～11月6日 @ 京都御苑
「大台ヶ原と京都御苑、美しい自然展」

6. ビジターセンター機能の充実

6-1. 機能整理

(1) ふれあいコーディネーターによるビジターセンター運営補助〔H19-25〕

大台ヶ原ビジターセンターにおいて、西大台利用調整地区事前レクチャーの実施や、利用者への自然環境の情報提供及びビジターセンター運営における各種業務の補助を行うことを目的として、平成19年度より「ふれあいコーディネーター」を配置している。

① 業務内容

ふれあいコーディネーターの業務内容は、年度によって若干異なるが、おおむね下記の内容を行っている。

a) 大台ヶ原地区の利用者への情報提供業務

- ・ 自然環境に関する情報の収集
- ・ 館内及びその周辺での情報提供
- ・ 苦情等の整理及び利用者指導

b) 大台ヶ原ビジターセンター展示物等作成補助業務

- ・ 展示に関する情報収集
- ・ 展示物の管理補助及び配布物の在庫管理補助
- ・ 展示に関するアンケート実施
- ・ 情報提供、普及啓発の用に供する展示物等の作成補助

c) 西大台利用調整地区事前レクチャー関連業務

- ・ レクチャー係る自然情報の整理
- ・ レクチャーの実施
- ・ レクチャー内容等の分析・検討
- ・ レクチャー内容の改定案作成

d) 所管地、直轄施設及び備品管理補助業務

- ・ 近畿地方環境事務所指定腕章の管理
- ・ 大台ビジターセンター建物内外の点検
- ・ 施設補修等に関する情報整理・報告
- ・ トウヒ苗畑の維持管理（除草・灌水・落葉敷詰・防鹿柵補修）
- ・ 近畿地方環境事務所備品の整理及び管理補助

6-2. 周辺地域の関係機関等との連携

(1) ツキノワグマの目撃情報の共有〔H25〕

大杉谷線歩道管理運営協議会との連携により、ツキノワグマの目撃情報等の共有を図っている。

7. 環境省以外の主体による取組

(1) 通信インフラの整備 [H24]

平成 24 年度より、一部の携帯電話（docomo、au）のサービスエリアが拡大し、通話・通信が可能となった。現状では、大台ヶ原山上駐車場周辺がカバーされており、条件によっては、大台ヶ原の一部の尾根沿い等においても通話・通信が可能な状況となっている。

(2) 大台ヶ原・大峯山ユネスコエコパーク保全活用推進協議会の設立 [H25]

昭和 55 年、ユネスコが実施する生物圏保存地域（Biosphere Reserves/BR）に「大台ヶ原・大峯山」が登録された。登録当時は、「保存機能」と「学術的研究支援」の機能に重点が置かれていたため、「核心地域」と「緩衝地域」の設定で申請し、登録されたものであった。しかし、平成 7 年、ユネスコによるセビリア戦略（BR 世界ネットワーク定款含む）が策定され、「経済と社会の発展」の機能と「移行地域」の設定が必要になったことを受け、平成 26 年 1 月、関係市町村（五條市、大台町、上北山村、下北山村、川上村、天川村、十津川村）を中心に「大台ヶ原・大峯山ユネスコエコパーク保全活用推進協議会」が設立された。

今後、核心地域・緩衝地域の見直しを含め、移行地域の設定に係る申請書を作成する予定。

表 5：大台ヶ原・大峯山エコパークに係る経緯

昭和 55 年	「大台ヶ原・大峯山」が、ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画の生物圏保存地域（BR）に登録される。
平成 22 年 1 月	日本ユネスコ国内委員会にて、BR の国内呼称が「ユネスコエコパーク」に変更される。
平成 25 年	文科省から、「移行地域」の設定を条件に、継続するか廃止するかを地域主導で決定し、申請するよう指導される。
平成 26 年 1 月	「大台ヶ原・大峯山ユネスコエコパーク保全活用推進協議会」が設立され、今後、協議会構成員等において、詳細が調整される予定。